

## ヘミングウェイの飲んだ酒

高野泰志

福岡の繁華街、天神の南の方に、rendez-vous des amis（ランデヴーデザミ）というワインバーがあります。今年の始めに、ふと何の気なしにぶらっと入ってみて驚きました。そのお店はもちろんワインの品揃えが豊富であることは言うまでもないのですが、壁一面にずらりと並んだ瓶を見ると、Absintheと書かれたラベルがいくつか。もしやと思ってお店のフランス人のバーテンさんに聞いてみると、およそ40種類ほどのアブサンがそろっているとのこと。

アブサンとは、言わずと知れた酒飲みあこがれの酒。ニガヨモギを原料とし、アルコール度数は40～80度という強烈さ。しかも成分に含まれるツヨンという物質の影響で向精神作用があることが知られています。一説によると、最近はやりの大麻よりも常習性が強いらしく、19世紀～20世紀の転換期にはおびただしい数の中毒者を生み出しました。

このような中毒症状が問題となって、20世紀初頭には多くの国でアブサンは製造も販売も禁止されるようになります。その後アブサンはスイスやフランスの田舎で密造されるにとどまりますが、ヘミングウェイの時代、スペインでは例外的にアブサンが合法でした。そんなわけでヘミングウェイの作品ではしばしば登場

人物たちがスペインでアブサンを飲む場面が描かれます。

ヘミングウェイの作品を読んでいると、アブサンがだんだんと白く濁っていく描写をご記憶のことと思います。

ウェイターは[デイヴィッドとキャサリンの]背の高いグラスに半分まで、くすんだ黄色の液体を注ぎ、その娘[キャサリン]のグラスに水をゆっくりと注ぎ込みはじめた。しかしその若者[デイヴィッド]は「僕がやろう」と言ったので、ウェイターはボトルを持ち去った。ボトルを持って行けてほっとしている様子だった。若者はひどく細い筋状にしながら水を注ぎ、娘はアブサンが乳白色に濁っていくのを眺めていた。グラスを握っていると指が温かく感じられた。そうして黄色い色合いが消えてミルク色になり始めると急に冷たくなり、若者は水を一滴ずつ垂らしはじめた。

「どうしてそんなにゆっくり入れなきやならないの？」娘は尋ねた。

「水を急いで入れすぎるとばらばらになって分解してしまう」若者は説明してやった。「そうすると味が抜け

てちっともうまくないんだ。本当は上に氷を載せたガラスを置いて、小さな穴から水がしたたるようにするものなんだ。でもそうすると何を飲んでいるのかばれてしまうから」(The Garden of Eden 38-39)

舞台はスペイン国境近くのフランス。禁制品の酒アブサンを提供するウェイターの緊張感が伝わってきます。

実際にアブサンを飲んだことがないとなかなかこの白濁していく様子がイメージしにくいのではないのでしょうか。今回、このワインバーで初めてアブサンを飲ませてもらって、ヘミングウェイの描くアブサンの描写が初めて実感できました。このお店ではヘミングウェイが当時飲んでいたのと同じやり方でアブサンを入れてもらえるので、写真付きでその報告をしてみたいと思います。



まずはアブサン専用の水のサーバーです。ちょっと変わった形をしています。下に水道の蛇口のようなものがついているのが分かります。ここから水を少しずつ垂らしていくのです。



そしてグラスにアブサンスプーンと呼ばれる専用のスプーンをのせ、その上に角砂糖を置きます。アブサンスプーンには穴が空

いていて、角砂糖の上からアブサンを流し込みます。次にそこに火をつけ、しばらく放置。そして先ほどのサーバーから水を垂らし、火が消えるとスプーンの角砂糖をアブサンの中に入れ、かき混ぜます。



あとはゆっくりとサーバーから水を1滴ずつ落としていきます。1滴水が落ちるごとにだんだんと色が白く変わっていくのです。色の変化までは写真では写りませんので、この先はご自分で見てもらうしかありません。福岡へお立ち寄りの際には一度試してみられたらいかがでしょうか。

ちなみに現在、日本で「アブサン」を名乗って提供されているお酒は2000年のEUによるアブサン解禁後に作られた、いわゆる新合法アブサンと呼ばれるもので、元々のアブサンとはあまりにもかけ離れていて多くのアブサンファンを落胆させました。このお店ではマスターがフランス人なので、実際にフランスやその他の地域をまわっておいしいアブサンを探してくるのだそうです。そういうわけでここで飲めるアブサンは本物です。

一般に麻薬のような扱いを受けているために、それほどメジャーなお酒ではないので、飲める機会自体が多くないと思います。マスターによれば、このお店に置いてあるアブサンの種類はおそらく日本で最大規模だろうとのこと。

ただし、お試しになる場合にはくれぐれもご注意を。翌日1日無駄になることは覚悟しておいた方がいいでしょう。私は初めて飲んだとき、夜、布団に入ってから急に鼓動が激しくなり、眠れなくなりました。また常習性が激しく強いお酒ですので、世紀末文学に出てくるようなアブサン中毒の廃人にならないよう、適量をお守りください。

お店の情報

rendez-vous des amis

810-0021 福岡市中央区今泉1-13-27

サンスペース今泉101